

学校だより



中国地方は、6月26日に統計を取り始めて最も遅い梅雨入りとなりました。農家の方々や植物にとっては、待ちに待った雨のシーズンを迎えましたが、心配なのは集中豪雨です。異常気象が当たり前になってきている今日、昨年の西日本豪雨の教訓を忘れず、避難場所・避難経路の確認や停電への備え、非常持ち出し品の準備等、お住まいの立地環境に合った事前の対応をぜひお願いします。

さて、長いと思っていた1学期も最後の7月を迎え、まとめの時期となりました。振り返ると1学期は、運動会、海の学習や校外学習等の様々な行事や学習がありました。また、入学や進級して日々新しい学習内容に取り組んだり、友達との関わりの中で生活したりしてきました。こうした中で、子どもたちは多くのことを学び、成長してきました。

今月はこれらのまとめとして、学習面では獲得した知識や身に付けた力の定着を図ると共に、生活面では「できるようになったこと」と「まだできていないこと」を振り返って自覚させ、次の目標を立てさせたいと考えています。1学期のお子様の様子につきましては、個人懇談や通知表でお知らせします。力が伸びてきたことやこれからの課題等を含め、お子様のより良い成長のために一緒に考える時間にしたいと考えています。ご多用とは思いますが、ご参加をよろしくお願いします。



7月の生活目標「務めを最後まで果たす」

本校の教育目標の一つに、「よく働き最後までがんばる子ども」があります。学校・学級で子どもたちは、日直や係の仕事、給食や掃除の当番、委員会の活動等で役割をもって生活し、みんなのために働いています。これは、将来、社会生活を送る上での基礎になるものです。「何を」「何のために」「どのようにして」という目的意識をもたせ、最後まで取り組むことができるよう、今後も子どもたちに指導や支援をしていきたいと考えています。そして、子どもたちにやり遂げたという達成感や満足感を体験させ、次への「やる気」につなげていきたいと思ひます。ご家庭でも同様によろしくお願いします。



【自律】

教育心理学者の伊藤隆二氏は、書籍『育ち合うところ』の中で、ある少年の話を紹介しています。

少年は、父親と一緒に旅行に出かけました。行きの普通電車の車内は、少し掃除が行き届いておらず、それまでの乗客のゴミも座席の下等に捨ててあったために、その少年も鼻をかんだ紙を、他の乗客がしていたように座席の下に捨てました。父親は黙って見ていました。

帰りは特急列車に乗りました。この列車は掃除が行き届いており、ゴミが床等に捨てられていることもありませんでした。少年は自分が鼻をかんだ紙を上着のポケットに入れました。

このとき、それを見ていた父親が初めてこの少年の不正を正しました。

「おまえは行きの汚れた列車の中では平気で鼻紙を捨て、帰りのきれいな列車の中では捨てなかった。おまえの行為は環境によって左右されている。そのようなことでは、芯のしっかりした人物にはなれん。どんな場合でも自分が正しいと思うことはする、正しくないことはしないという芯のしっかりした人物になるようにこれから心掛けなさい！」

こう言われて、この少年は行きの列車で鼻紙を座席の下に捨てたことを後悔し、同時に周りの環境に支配されない人物にならなければ、と思ったということです。

この少年は父親から、自分を自分で律していくことの大切さを教えられました。「自律」は「自立」につながります。学校と家庭が連携しながら子どもに自律の大切さを教えていきましょう。自律はモラルの原点です。

